

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 66

2019. 3. 5 発行

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第66回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『熊野神社の生い立ちを足元から観る』

平成31年2月3日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ：『熊野神社の生い立ちを足元から観る』と題して、**富田宏彦氏（神職・本会会員）**に講演していただきました。

フォーラム参加者は、21名でした。



講演する 富田 宏彦 氏



会場風景



熊野神社鳥居

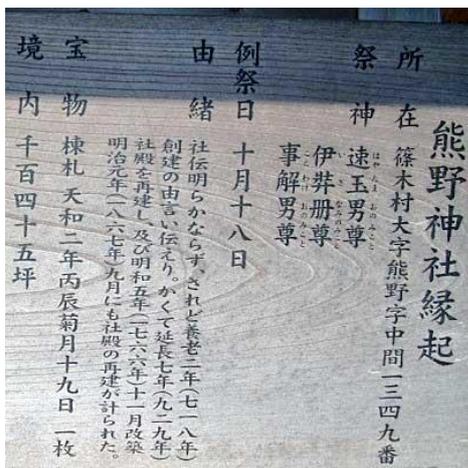


熊野神社標石碑

一発表要旨一

富田宏彦氏は熊野神社の神職で、本フォーラムの会員である。大留の冬至教会にも祈禱を頼まれるとのこと。31枚のスライドを使い発表された。棟札・古文書・春日井市史などを丁寧に分析された。

I. 熊野神社の縁起板の由緒を基に、そのなりたちを足元からみる



縁起板は平成13年に寄進されたもの。明治41年に熊野神社と指定された。以来、鳥居の額に社名が彫られ、標柱が建ったが、それまでは「お宮さん」として親しまれてきた。看板に「所在 篠木村大字熊野字中間三四九番」とあるが、これは明治39年(1906)からで、明治11年には春日井郡名栗村と牛毛村が合併して熊野村となった。明治13年に春日井郡の分割で東春日井郡熊野村に。明治22年に雛五村大字熊野に。明治39年に篠木村大字熊野になった後、昭和18年に合併に伴い春日井市熊野町に、昭和23年1月1日に町名変更により熊野町と穴橋町に分割した。祭神は 速玉男尊(はやたまのみこと) 伊弉册尊(いざなみのみこと) 事解男尊(ことわけのみこと)で、「日本書紀」にでてくる神である。由緒に、社伝明らかならず。されど延喜二年(718)創建の由言い伝えり。かくて延長七年(929)社殿を再建し、および明和五年(1766)十一月改築 明治元年(1868)9月にも社殿の再建が計られた。



れた。

㊦1967.1.9に改元。宝物に棟札 天和二年(1616)丙辰菊月十九日 1枚 境内 千百四十五坪 とある。㊦丙辰は1676年で、天和二年は壬戌である。菊月は陰暦9月。

II. 縣(あがた)神社との関係、近世古文書が示す熊野神社

(1)「当社ハ…生栗縣神社ニ相違無之」と。往古名栗村は生栗村と書かれた。これにつき、富田氏は2つの縄文遺跡の中間、名栗村は栗の産地だった。古墳の築造とともに、自然への畏れに縣神社を祀るムラの信仰があったとみる。当社のある地形は、祭祀執行に理想的なところだとみる。



(2)「縣嶋栗原神社熊野宮」の棟札に「奉納再建 縣嶋【拜殿の彫り物】 栗原神社熊野宮」とある。創建時は「生栗縣神社」が延長七年

丁丑六月の再建時に「縣嶋栗原神社熊野宮」と変わっている。「官社 栗柄地神 ト申し伝え」と古文書にある。縣嶋にあって、栗を奉納する生栗御厨にあるお宮を栗原神社と称し、熊野信仰をもって再選したと富田氏はみる。官社となって神職家が神社・社領地を常時運営し、それを相続するようになった。三代実録にある「栗柄ノ神」とみる。

(3) 延慶二年(1309)には「熊野三神権現」を勧進(寄付を募り再建する)したと「張州府志」にもある。神仏習合による「権現社」となったが、明治維新でももの見事に無視された。



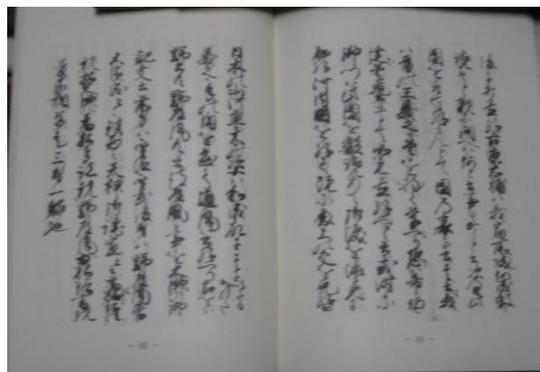
の庄屋や組頭の同意もあったことがわかる。

(4) 名栗村絵図の西方に5つの塚～弁天塚、雲霞塚、曾呂利宗八の埋塚など。

(5) 幕末ころから縣嶋宮から「熊野社」となる

近世は、神仏混淆と神社扣田畑(除地)により堅実経営をした。田三畝歩の寄付を受け、密蔵院との関係が日常的にあった。災害時の修復のための境内地での伐採記録が多く残る。この時代は寺社奉行の下にあり、一部水野代官所と関わりがあった。時々

III. 近代と現代～明治政府の神仏判然令と上知令



神仏混淆の排除と地租改正で、経済的に厳しい状況に置かれた。戦後のGHQの指示で、一般法人である宗教法人になった。戦後70年余になるが、財政的には極めて厳しいものの、宗教を超えた地域の住民の方々の情熱と努力の積み重ねがあって、現在に至っている。

IV. 今後のこの地の変化と新たな魅力づくり

この地域は区画整理事業が完了し、新しい地形の上に人口が大きく増える。近世を中心とした古文書等から、神社のなりたちを足元からみることで、これが何らかの役に立ち、さらに神社にも新たな魅力が加えられ、新しく参加してくる住民とも調和して、熊野神社と祭り(風習)が、引き続きふるさと意識の内にあることを祈ってやまない。

以上、極めて客観的で綿密冷静な過去の分析とこれからの神社のあり方にも触れた報告をされた。参加者が少なかったことが悔やまれる。また、貴重な映像資料が採録できなかったことも悔やまれる。

(記録：塚田忠雄)

〈次回案内〉

第 67 回

ふるさと



和爾良神社



小野道風公発祥地碑

春日井学研究フォーラム

Forum テーマ：『和爾良神社再興 800 年祭と

小野道風について』

講 師：山本哲夫 氏（和爾良神社 800 年祭実行委員）

日 時：2019年4月7日（日）午後1時30分～4時

場 所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）2階

TEL：0568-56-1943（〒486-0837 春日井市春見町3番地）

※（非会員の方のみ資料代 500 円当日徴収させていただきます。）定員 80 名（定員で切ります）

※申し込み 事務局：〒486-0825 春日井市中央通り 2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

[ふるさと春日井学検索](#)

フォーラム案内は中日新聞「ウィークエンドガイド」（毎週金曜日）近郊版に掲載します